

第2章 エステティックと医療の境界

2-1 なぜ「境界」を理解する必要があるのか

エステティックと医療は、ともに人の身体に関わる分野ですが、その目的、役割、専門性は異なります。

近年、美容への関心の高まり、美容医療の普及、美容機器の高度化などにより、両者の境界が分かりにくくなっています。

また、SNS やインターネット上では、医学的な印象を与える表現や、実際以上の効果を期待させる情報が発信されることもあります。

こうした環境の中で、エステティックに携わる者が医療との違いを正しく理解することは、顧客の安全を守るために不可欠です。

2-2 エステティックと医療の目的の違い

医療は、疾病や外傷の診断、治療、予防を目的としています。

医師をはじめとする医療従事者は、医学的知識に基づき、患者の健康回復や維持を目的として医療行為を行います。

一方、エステティックは、健康な心身を維持できている人を対象として、

- ・美容の維持・向上
- ・身体の美しさを保つためのケア
- ・心身のリラクゼーション
- ・生活の質（QOL）の向上

を目的とするサービスです。

この違いを理解することが、適正な業務範囲を守る基本となります。

2-3 医療行為とは

我が国の法令上、「医療行為」について包括的に定義した規定はありません。

しかし、医師法第17条では、「医師でなければ、医業をなしてはならない」と定められています。

医療行為に該当するかどうかは、行為の目的、身体への影響、医学的判断の必要性などを総合的に考慮して判断されます。

したがって、「美容目的であるから医療ではない」と単純に判断することはできません。エステティックでは観血的処置は禁止され、身体に一定以上の影響を及ぼす行為や、医学的判断を必要とする行為は単独ではできません。顧客が治療中であるならば担当医と施術内容について慎重に検討し、許可を得て行う必要があります。

2-4 エステティックに求められる判断

エステティシャンに求められるのは、医療的な判断を行うことではありません。

重要なのは、自らの専門領域を理解し、安全なサービス提供が可能かどうかを判断することです。

例えば、

- ・既存疾患・投薬状況・体内留置金属の有無について確認する
- ・施術前に禁忌事項を確認する
- ・顧客の肌状態・体調を確認する

ことは、安全管理のために必要な行為です。

一方で、

- ・疾患の診断
- ・治療方針の決定
- ・医学的判断に基づく処置

を行うことは、医療の領域となります。

2-5 エステティシャンに求められる倫理

専門職としてのエステティシャンには、高い倫理観が求められます。

顧客の希望に応えたいという思いは大切ですが、それ以上に優先すべきものは安全です。そのため、

- ・できることとできないことを正しく説明する
- ・不確実な効果を約束しない
- ・医療的效果を誤認させる説明をしない
- ・必要な場合には医療機関への相談を勧める

ことが重要です。

エステティックの価値は、医療の代替になることではありません。

美容分野における専門性を高め、安全で質の高いサービスを提供することによって、社会から信頼される存在となることにあります。